

できごと

平成 27 年 6 月 25 日 (木) に、当館講堂で「子ども図書研究室講演会」が開催されました。「日本の昔話の変遷—桃太郎を中心に—」をテーマに、東京学芸大学教授、一橋大学大学院連携教授の石井正己氏を講師にお迎えしました。

(2 ページ目にて、概要を紹介いたします。)

平成 27 年 7 月 10 日 (金)、当館で平成 27 年度公立図書館等職員専門研修「児童・青少年サービス研修」が開催されました。

午前中は「ストーリーテリングの魅力」と題して、県内でストーリーテリングの活動をされているちいさなおなべの会の河田紀子氏に実演を交えお話しいただきました。

午後は「荒川区立図書館のティーンズサービスについて」というテーマで、東京都荒川区立図書館の木藤由香氏に荒川区で行われている 10 代へのサービスについてお話しいただきました。(3 ページ目にて、概要を紹介いたします。)

◇子ども図書研究室のテーマ展示◇

- ◆「**絵本をひらくと**」展 10/10~11/22
静岡市美術館での展覧会に合わせて、子ども図書研究室所蔵の絵本を展示します。
- ◆**きのこの本** 8/1~10/5
- ◆**ミヒャエル・エンテの本** 9/1~10/9
- ◆**一番新しいクリスマスとお正月の本** 10/7~11/29

◇イベント情報その1◇

◆静岡市美術館

ちひろ美術館

世界の絵本原画コレクション展

「絵本をひらくと」

期間：10月10日(土)

~11月23日(月・祝)

時間：10:00~19:00(入場は18:30)

休館：月曜(祝日の場合は開館、翌日休館)

料金：一般1,000円、大高生・70歳以上
700円、中学生以下無料

◇イベント情報その2◇

◆国際子ども図書館 講演会

「<児童文学史>をもとめて—

展示会「日本の子どもの文学」の5年間をふりかえる」

日時：9月26日(土) 14:00~16:30

講師：藤田のぼる氏(児童文学作家・評論家)

宮川健郎氏(児童文学研究者)

会場：国際子ども図書館 アーチ棟 1階 研修室1

対象：中学生以上(定員100名)

申込：往復はがきまたはインターネット

(台東区HP>文化・観光情報>文化・芸術への取り組み
>上野の山文化ゾーン>講演会シリーズ)

締切：9月16日(水)必着

参加：無料

◇イベント情報その3◇

◆平成27年度第23回 静岡県図書館大会

会場：静岡県コンベンションアーツセンター
グランシップ

日時：平成27年11月9日(月)

9:45~15:45

申込み：申込用紙(県立中央図書館ホームページから
プリントアウト・県内公共図書館で配布)に記入の上、
来館、郵送またはFAX

宛先：静岡県立中央図書館 企画振興課振興係

〒422-8002 静岡市駿河区谷田53-1

FAX：054-264-4268

締切：平成27年10月8日(木)

※第3分科会は10月22日(木)まで

◆子どもの本に関する分科会

13:45~15:45

◇第2分科会 YAに対するサービス

(定員180人)

テーマ：「YAのための読書環境づくり

~魅力ある本を作り、若者が本と

出会うためにやってきたこと~」

講師：西村安曇氏(西村書店総合企画部・

ヤングアダルト出版会広報グループ)

◇第5分科会 学校図書館 (定員120人)

テーマ：「学校図書館をデザインする

~空間演出に学ぶ、子どもたちを

ひきつけるアイデア~」

講師：尼川ゆら氏(空間演出コンサルタント)

平成27年度 子ども図書研究室講演会

今年度の講演会は、口承文芸や物語文学の研究者である石井正己教授をお招きしました。古くから子どもたちに親しまれている昔話の変遷やその意義について、草双紙と呼ばれる、江戸時代出版された絵本を中心にお話しいただいたことを、次のとおり紹介します。

昔話は口承文芸として、世界各地で、世代を超えて伝えられてきました。ドイツでは1800年代初めに、昔話を活字にまとめたグリム童話が出版されましたが、同じ頃日本では、草双紙という絵本が子ども向けに作られていました。

時は江戸時代、草双紙は桃太郎、ねずみの嫁入りなどの昔話を取扱い、子どもたちにとっても人気がありました。その表現や絵柄には現在世界でも大人気の日本の漫画に通じるところがあり、漫画の根本は草双紙にあると思われるほどです。日本では古くから、口承芸能でも絵本でも、昔話を楽しんできたことがわかります。

このころ出版された『再考桃太郎昔話』は、最も古い桃太郎の絵本と考えられています。鬼退治に出かけた桃太郎の姿は、歌舞伎の荒若衆風に描かれており、桃太郎の発する言葉にも歌舞伎の口上が使われるなどして、当時の風俗が表れています。

桃太郎は、その後も子どもたちに親しまれ、教科書に載っていた時期がありました。しかし第二次世界大戦中やそれ以前、鬼から宝物を分捕り、めでたしとなる桃太郎は、軍国主義の英雄として扱われることがありました。そのためか戦後、教科書では全く扱われなくなりました。

その後1965年に出版された松居直作『ももたろう』では、その結末が変わっています。桃太郎は鬼から宝物をとる代わりに、お姫様を助け出し、幸せな結婚をする結末になりました。このように桃太郎の内容は、江戸時代から現代にか

けて、その時代背景により、大きく変わってきたのです。

昔話の内容が時代背景により変わるそのほかの例として、はちかづきひめが挙げられます。はちかづきひめは、実母が亡くなったあと継母に虐められ、川へ身を投げるが助かり、身分の高い青年に見初められて幸せになるというお話です。こちらもまた、江戸時代の草双紙で人気がありました。このうち、はちかづきひめが川へ身を投げる場面が、現在の絵本においては、川へ偶然落ちる場面に変更されることがあります。絵本の作り手が、主人公が自殺する場面を子どもに見せ辛いと考えるためではないかと思われるます。

しかし、はちかづきひめは、継子が虐められても最後には必ず幸せになるというお話です。その姿を、今困難を抱えている子どもが自身に重ね合わせることで、生きていけば必ず幸せを手にすることができるという救いを得ることができるのではないかと考えられます。

昔話には、生きていくうえで大抵の問題課題ならば、対応する力があるはずですが、昔話の中にある知恵を引き出し、子どもたちに与えることにより、問題を解決させる力になる、そう考えると、伝わってきた昔話をそのまま伝えることに、大きな意義があると思われるます。

所蔵資料から

絵本



『ももたろう』

まつい ただし／ぶん

あかば すえきち／え

福音館書店

1965年2月

講師が、戦後の影響を受け、減ってしまった桃太郎の昔話を、現代に甦らせたとして紹介した絵本。出版から50年以上、水彩画の美しい挿絵と読みやすい文章で、子どもたちに親しまれている。（仲本）

公立図書館等職員専門研修会 児童・青少年サービス研修 報告

前半の河田氏の講義は、ストーリーテリングの実演から始まりました。ストーリーテリングとは、昔話や物語を覚えて語って聞かせることで、素話や語りとも言われます。河田氏の所属するちいさなおなべの会の3人で小学校低学年向けと高学年向けのお話会を、ろうそくに灯をともし、普段子どもたちに行っているようにしてくださいました。各30分、計1時間のお話会をたっぷり楽しんだ後、会の活動やお話の選び方、練習方法などをお話しいただきました。

ちいさなおなべの会は、静岡県西部地区を中心に、幼稚園や小学校、図書館などでお話会をしています。昨年語ったお話が50種190話になる人もいました。お話は語る季節や聞く子どもに合わせて様々なものを覚えています。

お話は、何よりもまず自分が好きなものを選んでください。そしてその後に、そのお話が子どもにとって良いかどうか、語りに向いている文体かどうかを考えます。

覚えるには、まずそのお話についていろいろ想像します。例えば「こすずめのぼうけん」(エインワース作「おはなしのろうそく13」)では、その日はどんな天気だったのか、こすずめはどの方角へ行ったのか、途中出てくるヒイラギや樫の木はどんな木なのか、というように。同じお話でも、語り手それぞれのイメージがあるので、お話の雰囲気もそれぞれ変わります。それから、子どもたちにお話をする前には必ず人前で声を出して練習することが大切です。

その他、プログラムの組み方や、お話会での子どもたちの様子などもお話しいただきました。日々の勉強や練習を大切に、ストーリーテリングを通して子どもたちに楽しい時間を届けていらっしゃるお話はとても勉強になりました。

後半は、荒川区立図書館の木藤氏にティーンズサービスについてお話しいただきました。ティーンズサービスとは、ヤングアダルト(YA)サービスとも言い、「児童コーナーはもう行かないけれど一般書は難しい」10代へ向けた図書館サービスのことを指します。

荒川区のティーンズサービスは2004年頃から始まりました。現在荒川区では、読書情報誌「ぺら」(毎月発行)、ブックリスト「図書館員の太鼓ボン」(隔年発行・区内の公立中学校に配布)、パスファインダー「motteco」を作成しています。また、区内の中学生にアンケートを取って紹介する本を決めたり、10代の読書の実態を把握したりするようにしています。

イベントは当初は講師を招いた講演会形式でしたが、10代の参加を促すため、現在は主に体験型で開催しています。昨年開催した「夜の図書館から脱出せよ!」は、脱出ゲームに図書館の使い方を学べる工夫をし、とても好評でした。

また、ティーンズスタッフとして毎年7、8人が「ぺら」の執筆やイベントスタッフとして活動しています。

全国的にも知られる荒川区のティーンズサービスの活動を具体的に紹介していただき、とても参考になりました。

所蔵資料から

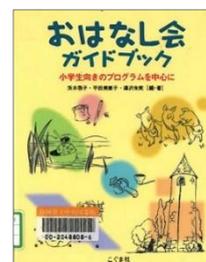
研究

『おはなし会ガイドブック』

茨木 啓子/編・著

こぐま社

2003年3月

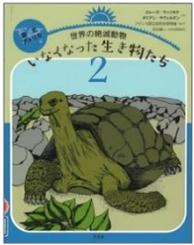


主に学校でのお話会の計画やプログラムの組み方を具体的に紹介。ちいさなおなべの会でも、お話会の参考にしているそうです。

(眞子)

知識

『世界の絶滅動物』



いなくなつた生き物たち 2』
エレーヌ・ラッジカク／作
ダミアン・ラヴェルダン／作
北村雄一／日本語版監修
泉暢子／訳
汐文社 2015年3月

先史時代から現代までに絶滅した動物たちが生きていた頃の姿を紹介する。動物たちが登場する神話や研究者のエピソードが、絵本形式で面白く描かれ、詳細な姿絵と共に、各動物につき見開き1ページで示されている。古くから原始の動植物を展示している、フランス国立自然史博物館が制作に協力している。

全3巻のうち本書では、南北アメリカにかつて生息したジャイアントビーバー、オオウミガラス、リョコウバトなど、10種類の動物が紹介されている。【小学校高学年から】(仲本)

文学

『酒天童子』



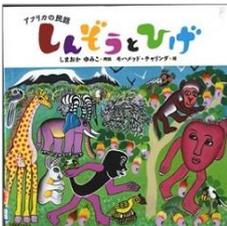
竹下文子／著
平沢下戸／絵
偕成社
2015年4月

源頼光、頼光四天王と呼ばれる渡辺綱、坂田公時、碓井貞光、卜部季武、藤原保昌は、平安時代の伝説的な武人である。彼らの活躍を、説話や軍記から集めて、小中学生にも読みやすくまとめ直したのが本書。原典は心理描写が少なくあっさりしているが、本書では十分に補われている。また、当時の時代背景や分かりにくい言葉は頭注で解説されているため、平安時代についての知識がなくても、楽しんで読むことができる。古典に興味を持つきっかけになる1冊である。

【小学校高学年から】(青木)

絵本

『しんぞうとひげ』



アフリカの民話』
しまおかゆみこ／再話
モハメッド・チャリンド／絵
ポプラ社
2015年4月

アフリカのタンザニアに伝わる民話。タイトルどおり、しんぞうとひげが主人公である。どちらも貧乏でいつもはらをすかせて、何日も何日も過ごしていたしんぞうとひげが出会ったらどうなったのか。人間の体の中でしんぞうがドキドキし、ひげが口の周りになる理由が判明する。

主人公にはめったにならないモチーフと、さすがアフリカと思わせる色彩豊かで力強い絵が読む者を話に引き込む。読み聞かせにも利用しやすい。【小学校低学年から】(青山)

絵本

『庭をつくろう!』



ゲルダ・ミュラー／作
ふしみ みさを／訳
あすなろ書房
2015年3月

春、バンジャマンが引っ越してきた家には大きな庭があった。荒れていた庭は両親や妹、友人、おばさんと協力して手入れし、病気だった古いリンゴの木は木のお医者さんに診てもらおう。やがて庭は、花が咲き野菜やリンゴが収穫でき、鳥が集まる庭になる。移り変わる季節とともに様々な表情を見せる庭と子どもたちの様子が生き生きと細かく描かれており、実際に庭をつくってみたくなる。86年刊『ぼくの庭ができたよ』を訳と発行元を変えて刊行。字は多いが内容は平易。【小学校低学年から】(眞子)